

家族と地域が育む未来： 療育者と共に未来を支える支援研修

社会福祉法人 岩手ひだまり会

〒023-0828 岩手県奥州市水沢東大通り 2 丁目 4 番 3 号

助成事業の概要

本事業は『療育者と保護者の協働』を主題として、鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻 教授・井上雅彦先生の指導の下、障害のあるお子様の療育支援を実施している埼玉県の NPO 法人輝 HIKARI 代表の金子 訓隆氏をペアレントメンターとして呼びし実施しました。令和 7 年 7 月 12 日、北上市にて保護者対象の『発達に特性のある児童家族のための勉強会』を開催し、発達特性の理解と家庭での具体的支援（環境調整・関わり方）の要点を共有しました。翌 13 日には、県内特別支援学校教諭及び放課後等デイサービス等の療育者を対象に『ペアレントトレーニング養成研修（鳥取式）』を実施し、支援の共通言語化と連携促進を図りました。さらに令和 8 年 3 月 1 日、受講者向けにリモートでフォローアップ研修を行い、実践状況の共有、振り返り、課題整理を通じて定着を支援しました。加えて、継続実施と事業所への波及に向け、盛会裏に終わり、家庭と療育現場の連携を強化し、子どもが安心して成長できる支援体制の構築と地域の発達支援の質向上に向け大きな成果となりました。

事業の成果

本事業は、公益財団法人日本社会福祉弘済会の助成を受け、北上市で初めて、発達に特性のある子どもと家族を地域で支える仕組みづくりとして、「療育者と保護者の協働」を地域に実装することを目的に実施した。7 月 12 日の保護者向け勉強

会には保護者等約 15 名が参加し、感覚過敏や強いこだわりは成長後も継続し得ることを前提に、家庭での具体的な関わり方、完璧を求め過ぎない姿勢、周囲の支援を得ながら自分に合う対処法を確立する視点を共有した。

翌 7 月 13 日のペアレントトレーニング実践者養成研修には教員・児童指導員等 30 名が参加し、行動理論に基づく技法の学習に加え、ロールプレイやグループワークを通じて「子どもの目線になって考える」「行動を振り返りイメージしてもらう」等の支援手順を、説明可能な形で獲得した。保護者支援と専門職育成を同一フレームで連続実施したことで、家庭と支援現場が同じ見立て・同じ評価観点で連携しやすくなり、学校・福祉・地域資源が協働して継続展開する土台が整備された。加えて、本事業で用いた枠組みは子育て・家族支援全般へ応用可能で、他市町村・学校・事業所へ波及しやすい再現性を備える点で、地域福祉の底上げに資する成果である。

成果の広報・公表

本事業の成果は、1. 事前周知（募集）2. 実施内容の公表（報道）3. 成果の集約・再公表（広報）4. フォローアップの公表の順に、家族向け・支援者向け双方で計画的に実施した。事前周知として、家族向け研修（7/12）の募集チラシを岩手日日に掲載し、同様の家族向け募集チラシを岩手日報に 7/3 に 1 回掲載した。支援者向けのペアレントトレーニング実践者養成研修（7/13）は、7 月に本会ホームページへ募集情報を掲載し、北

上市・奥州市の通所支援施設へ本会職員が募集チラシを配布した。実施後の公表として、支援者研修の記事が岩手日報に 7/15 に掲載され、家族研修の記事が岩手日日に 7/13 に掲載された。さらに 9 月発行の本会広報誌で家族支援と養成者研修を特集し、最後のフォローアップ研修は胆江日日新聞に 3/6 に掲載され、取組を継続的に可視化した。広報により、地域住民と関係機関の理解が進み、参加希望・相談の増加につながった。

■ 今後の展開

令和 4 年度より当会のみで実施してまいりましたペアレントトレーニングは、参加家族が 1 ～ 2 家族、実践者も 2 ～ 3 名程度にとどまる小規模な取組でございました。今回、公益財団法人日本社会福祉弘済会様の助成を賜り、鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座 教授で日本ペアレント・トレーニング研究会 会長の井上雅彦先生をお招きし、2 日間にわたり家族支援と実践者養成を実施いたしました。参加家族間のつながりが生まれ、養成者の実践が他療育施設にも広がりがつつあります。今後は無理のない範囲で情報共有を重ね、実践の輪を少しずつ広げてまいります。東北では学術系講師に学ぶ機会が限られるため、得られた知見を整理し、必要に応じて学校・通所支援・相談支援等へ共有するなど、段階的に連携を検討します。実践記録と参加者の声も踏まえ、改善を着実に重ねてまいります。このような取組を通じて、地域に根ざした支援の在り方を模索してまいります。